
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2015年第34週
(8月17日～8月23日)

- * 2015年8月26日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「新規抗結核薬と高齢者結核問題」も掲載しています。

平成27(2015)年8月27日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2015年34週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		31週	32週	33週	34週	年累計	34週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	89	61	58	64	2,379	333	15,490
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}								
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢	2	2		2	42	6	103
	腸管出血性大腸菌感染症	19	14	19	15	235	145	2,224
	腸チフス	1				8		22
	パラチフス					5		23
四類	E型肝炎	1				19	3	126
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎				1	30	1	171
	エキノコックス症					1		8
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							3
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		2
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}						2	42
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					6		11
	つつが虫病				2	4	2	76
デング熱		1	3	5	47	9	162	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		31週	32週	33週	34週	年累計	34週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						4	99
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					2		4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア	2	1		1	12	1	25
	野兔病							1
	ライム病					1	1	7
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
レジオネラ症	3	1	3	5	79	9	938	
レプトスピラ症					5		9	
ロッキー山紅斑熱								

2015/8/26集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 64件 肺結核 27件、その他の結核 10件、肺結核及びその他の結核 2件、無症状病原体保有者 22件、疑似症 3件、年齢は5歳未満 2件、10代 1件、20代 10件、30代 4件、40代 7件、50代 5件、60代 10件、70代 12件、80代 12件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 61件、国内又は国外(渡航先不明) 3件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 患者 2件、菌種はソルネ 2件、年齢は30代 1件、40代 1件、推定感染地はインド 1件、インドネシア 1件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 1件であった。

腸管出血性大腸菌感染症 15件 患者 12件(うち HUS 2件)、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O111 VT1 1件、O121 VT型不明 1件、O157 VT1・VT2 6件、O157 VT2 2件、O159 VT1・VT2 1件、血清型不明VT2 1件、血清型不明VT型不明 1件、血清でのO抗原凝集抗体の検出 1件、年齢は10歳未満 2件、10代 4件、20代 2件、30代 1件、40代 2件、50代 1件、60代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 13件、ペルー又はボリビア 1件、国内又はハワイ 1件、推定感染経路は経口感染 8件、接触感染 1件、経口感染又は接触感染 1件、不明 5件であった。うちO157 VT1・VT2の1件は、第31週から報告されている飲食店の事例に関連していた(計5件)。

〈四類感染症〉

A型肝炎 1件 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は性別不明性的接触であった。

つつが虫病 2件 患者 2件、年齢は10代 1件、30代 1件、推定感染地は国内 2件であった。

デング熱 5件 患者 5件、病型はデング熱 5件、血清型は1型 2件、2型 1件、3型 1件、不明 1件、年齢は10歳未満 1件、10代 1件、20代 2件、40代 1件、推定感染地はフィリピン 2件、マレーシア又はタイ又はフィリピン 1件、ミャンマー 1件、仏領ポリネシア 1件であった。

マラリア 1件 患者、病型は三日熱、年齢は20代、推定感染地はインドであった。

レジオネラ症 5件 病型は肺炎型 4件、ポンティアック熱型 1件、年齢は40代 1件、50代 1件、60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は水系感染 1件(風呂場)、不明 4件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2015年34週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		31週	32週	33週	34週	年累計	34週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢		4	5	3	130	19	715
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)			1	1	33	1	159
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	5	4	11	11	136	38	957
	急性脳炎 *1			2		32	6	336
	クリプトスポリジウム症					3		9
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1		18	4	115
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4		2	1	46	5	291
	後天性免疫不全症候群	7	10	7	11	273	13	918
	ジアルジア症				1	14	1	48
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1		1	17	4	164
	侵襲性髄膜炎菌感染症					7		22
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	2	1	1	213	7	1,561
	水痘(入院例に限る) *2	1	2		1	33	3	205
	先天性風しん症候群							
	梅毒	21	23	22	23	620	41	1,511
	播種性クリプトコックス症 *2					8	1	74
	破傷風					1	3	72
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1	2	39
	風しん	3		1		25	1	123
麻しん					9	1	27	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2			1		6	1	23	

2015/8/26集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

（五類感染症）

アメーバ赤痢 3件 病型は腸管 3件、年齢は50代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は同性間性的接触 1件、不明 2件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は異性間性的接触、B型肝炎ワクチン接種歴は無しであった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 11件 患者 11件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 5件、エンテロバクター・クロアカ 6件、年齢は50代 2件、60代 3件、70代 1件、80代 3件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 11件、推定感染経路は医療器具関連感染 4件、以前からの保菌 2件、院内感染 1件、不明 4件、90日以内の海外渡航歴は無し 11件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はG群、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 11件 AIDS 1件、無症候キャリア 10件、AIDS患者の年齢は20代、無症候キャリアの年齢は20代 3件、30代 2件、40代 2件、50代 3件、推定感染地は国内 8件、中国 1件、不明 2件、推定感染経路は同性間性的接触 8件、不明 3件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、ヒブワクチン接種歴は無しであった。

侵襲性肺炎球菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、肺炎球菌ワクチン接種歴は無しであった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 23件 早期顕症梅毒Ⅰ期 4件、早期顕症梅毒Ⅱ期 9件、晩期顕症梅毒 2件、無症候梅毒 8件、年齢は20代 9件、30代 7件、40代 4件、50代 3件、推定感染地は国内 22件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 21件(同性間 6件、異性間 12件、性別不明 3件)、不明 2件であった。

※ 第33週該当分として〔五類〕クロイツフェルト・ヤコブ病 1件、薬剤耐性アシネトバクター感染症 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2015年34週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		31週	32週	33週	34週		
小児科	RSウイルス感染症	27 0.10	58 0.22	35 0.15	64 0.27	239	264
	咽頭結膜熱	148 0.57	131 0.51	97 0.42	118 0.49		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	468 1.79	367 1.42	213 0.93	235 0.98		
	感染性胃腸炎	1,065 4.08	924 3.58	576 2.50	759 3.18		
	水痘	91 0.35	92 0.36	48 0.21	55 0.23		
	手足口病	3,678 14.09	2,960 11.47	1,517 6.60	1,232 5.15		
	伝染性紅斑	157 0.60	165 0.64	71 0.31	110 0.46		
	突発性発しん	179 0.69	166 0.64	119 0.52	121 0.51		
	百日咳	14 0.05	6 0.02	1 0.00	2 0.01		
	ヘルパンギーナ	807 3.09	647 2.51	332 1.44	282 1.18		
	流行性耳下腺炎	96 0.37	92 0.36	62 0.27	89 0.37		
	川崎病 *1	3 0.01	8 0.03	1 0.00	2 0.01		
	不明発しん症 *1	44 0.17	36 0.14	16 0.07	27 0.11		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	11 0.03	3 0.01	4 0.01		
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.03			39	39
	流行性角結膜炎	38 0.97	28 0.74	21 0.58	42 1.08		
基幹	細菌性髄膜炎 *3		2 0.08			25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	1 0.04	1 0.04	2 0.08		
	マイコプラズマ肺炎	12 0.48	9 0.36	21 0.84	26 1.04		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2 0.08	1 0.04	1 0.04	1 0.04		
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス) *4						
	インフルエンザ入院			1 0.04	2 0.08		

2015/8/26集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は3週連続で減少したが、都の警報は継続している。
- ・ 流行性角結膜炎の定点当たり報告数は、増加傾向にあり、過去5年平均を超えている。
- ・ マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、2週連続で増加し、過去5年平均を超えている。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年34週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	5	2		6	3	11		3	1	5	
6～11か月	18	9	4	83	3	171	5	42		35	
1歳	36	16	6	116	6	423	7	63		93	1
2歳	3	19	14	65	10	243	7	9		51	8
3歳	2	18	26	68	3	131	18	1	1	37	6
4歳		14	30	43	9	82	24	2		19	6
5歳		17	25	49	5	54	13			11	15
6歳		8	29	29	7	33	15	1		9	12
7歳		2	20	29	2	16	4			4	12
8歳		3	11	31		21	6			9	12
9歳		1	15	26		9	5			2	4
10～14歳		5	27	93	3	11	4			5	8
15～19歳		1	6	21	1	3	1				1
20～29歳		3	22	100	3	24	1			2	4
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	64	118	235	759	55	1,232	110	121	2	282	89
先週比	29	21	22	183	7	-285	39	2	1	-50	27

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1									
6～11か月		5			2						
1歳		12			1			1			
2歳		1			1			1			
3歳	2	1			1			3			
4歳					1			2			
5歳		2			1			1			
6歳		1						1			
7歳					1			2			
8歳		3					1	2			
9歳		1						3			
10～14歳			1		2			3			
15～19歳			1		1			4			1
20～29歳					2		1	1			1
30～39歳					5			1			
40～49歳			1		8						
50～59歳					5						
60～69歳			1		1						
70～79歳					10						
80歳以上								1	1		
合計	2	27	4		42		2	26	1		2
先週比	1	11			21		1	5			1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2015年34週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	0.33			0.33	0.33	2.67		0.67		1.00	1.00
中央区			1.33	5.67	0.67	5.67					
みなと	0.50		1.33	3.67		8.83	0.33	0.67		0.67	0.33
新宿区	1.50	0.25	1.13	1.25	0.25	4.25	0.50	0.50		1.00	0.25
文京		0.50	0.50	3.00	0.50	7.50	0.50			0.75	0.25
台東	2.25		0.25	4.50		9.25	1.00	1.50		1.50	0.50
墨田区	0.60	0.20	1.40	1.00	0.40	6.00	0.40	0.40		1.80	1.20
江東区	0.25	0.50	0.63	5.88	0.88	5.00	0.63	0.63		1.63	0.75
品川区		0.25	0.88	3.00	0.13	4.00	0.38	0.88		1.25	
目黒区		1.40	0.80	3.80		7.80	0.40	0.40		2.00	0.40
大田区	0.44	1.67	1.56	3.67	0.22	6.56	0.22	0.56	0.11	1.89	0.11
世田谷	0.19	0.38	0.88	3.06	0.38	5.56	0.31	0.44		1.13	0.13
渋谷区			0.25	2.00	2.00	5.25	0.25	0.25			
中野区			0.17	2.33		1.50	0.67			1.17	
杉並		0.13	0.63	4.38		4.00	0.50	0.63		0.25	0.13
池袋						0.67				0.33	
北区		0.29	0.71	2.71	0.14	7.71	0.14	0.57		0.57	1.14
荒川区	0.67		0.67	2.00	1.00	7.67	0.33	0.33		2.33	
板橋区		0.11	0.11	2.33		2.89	0.33	0.44		1.00	0.11
練馬区	0.91	0.09	1.00	1.55		5.27	0.45	1.09		1.36	0.55
足立	0.17	0.58	0.42	4.08	0.17	2.25	0.42	0.25		0.17	0.25
葛飾区		0.13	0.38	5.50	0.13	2.38	0.63	0.25		0.63	
江戸川	0.40	0.90	1.20	3.80	0.10	2.60	0.10	0.50		2.40	1.70
八王子市		0.80	2.20	5.70	0.30	7.20	0.30	0.60		1.10	0.40
町田市		0.14	2.00	6.86	0.14	6.00	0.43			1.86	0.14
西多摩		0.75	0.38	1.63	0.25	3.00	0.13	0.13		0.50	0.38
南多摩	0.33	0.89	0.78	1.56	0.33	8.44	0.33	0.89		1.44	0.44
多摩立川	0.21	0.14	1.50	2.43	0.07	3.64	0.71	0.50		1.14	0.14
多摩府中		0.80	0.73	2.47	0.13	5.27	0.93	0.53		1.27	0.33
多摩小平	0.20	1.33	2.40	3.20	0.13	7.60	1.00	0.67	0.07	1.80	0.47
島しょ						9.00				2.00	
東京都	0.27	0.49	0.98	3.18	0.23	5.15	0.46	0.51	0.01	1.18	0.37

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			0.25								
中央区			0.20		5.00						
みなと			0.11								
新宿区	0.25							2.50			0.50
文京					1.00						
台東											
墨田区		0.60			2.00			2.00			1.00
江東区					1.00						
品川区											
目黒区											
大田区			0.07								
世田谷		0.44			3.00						
渋谷区					5.00						
中野区		0.17			3.00						
杉並					1.00						
池袋					1.00			2.00			
北区											
荒川区											
板橋区					2.50			4.00			
練馬区		0.27			0.50						
足立		0.08			0.50						
葛飾区		0.13						3.00	1.00		
江戸川					0.50						
八王子市		0.20			1.00						
町田市		0.43									
西多摩					1.00			2.00			
南多摩											
多摩立川					0.50			2.00			
多摩府中		0.27			0.33		0.33	1.00			
多摩小平		0.13			2.00		0.50	1.50			
島しょ											

東京都	0.01	0.11	0.01		1.08		0.08	1.04	0.04		0.08
-----	------	------	------	--	------	--	------	------	------	--	------

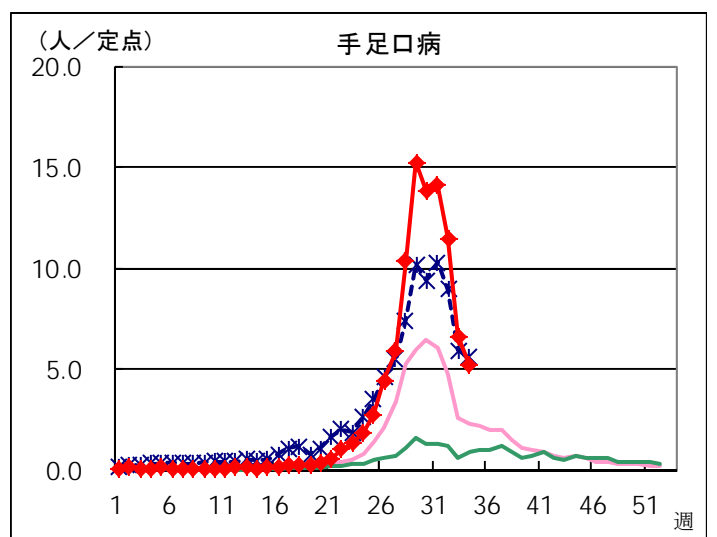
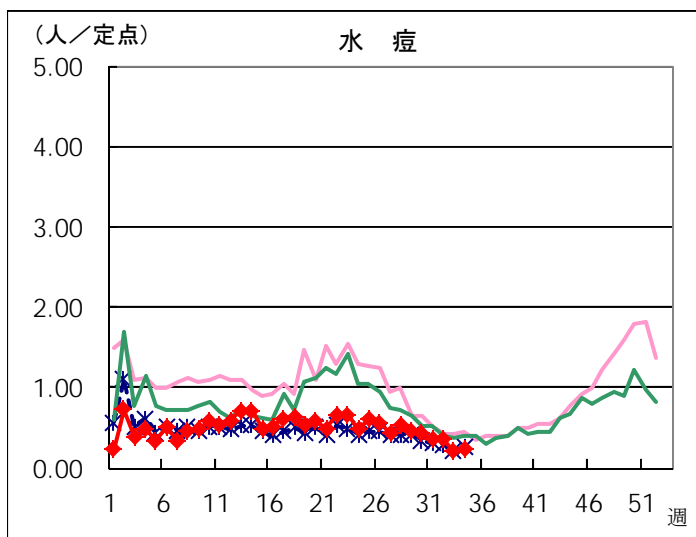
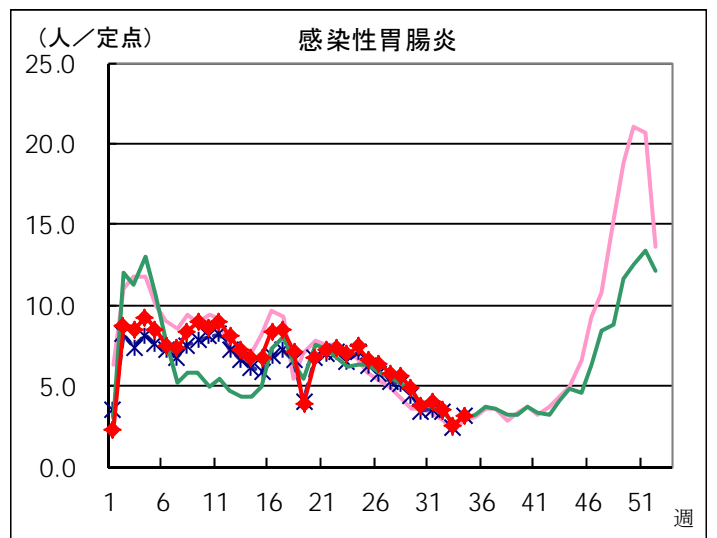
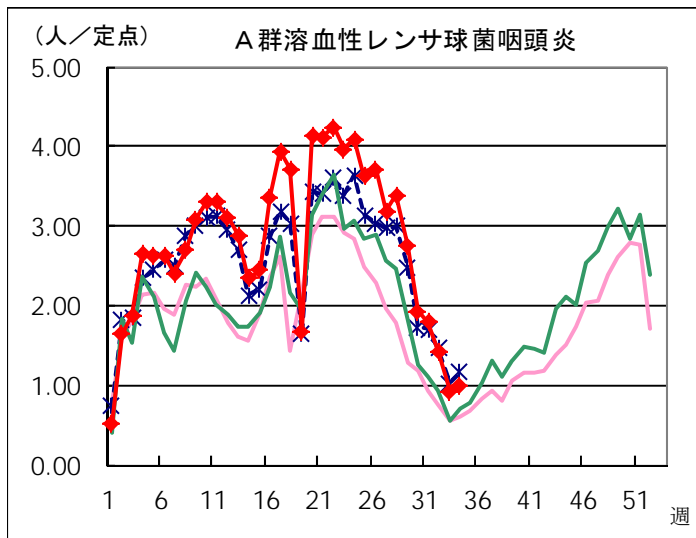
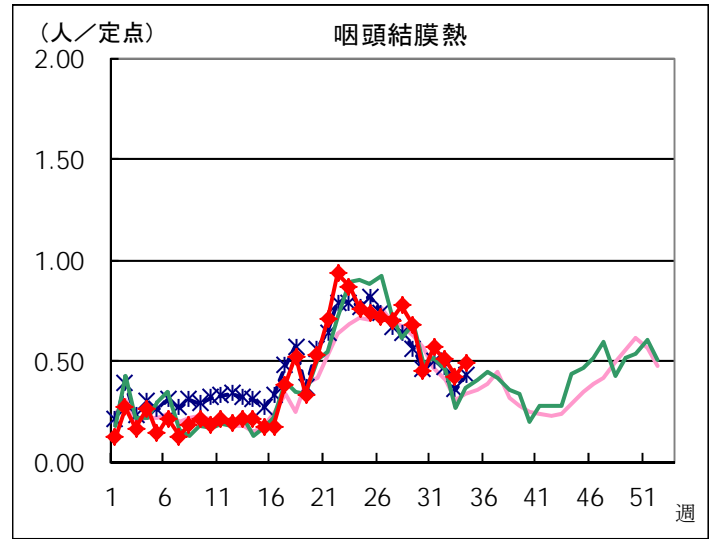
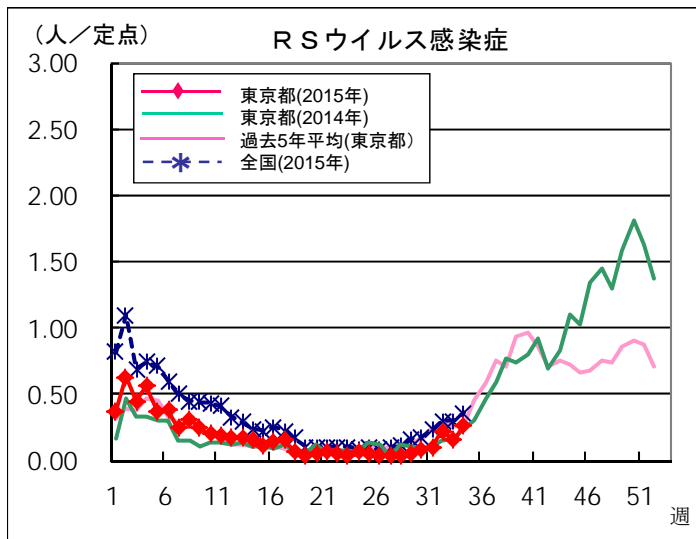
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年34週

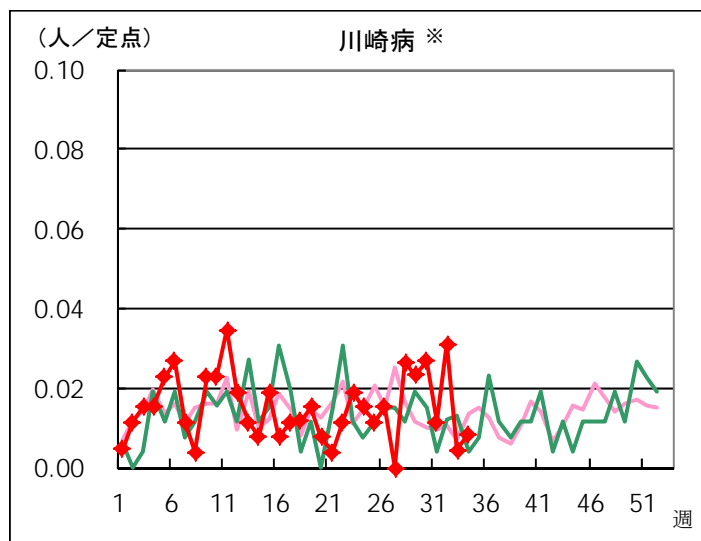
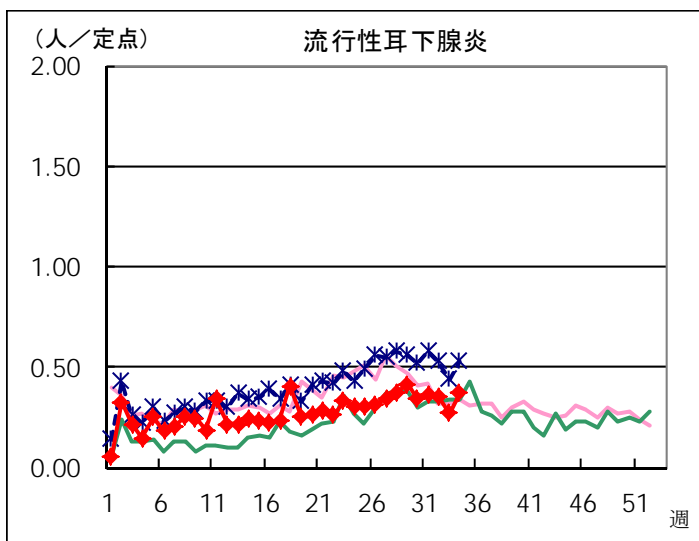
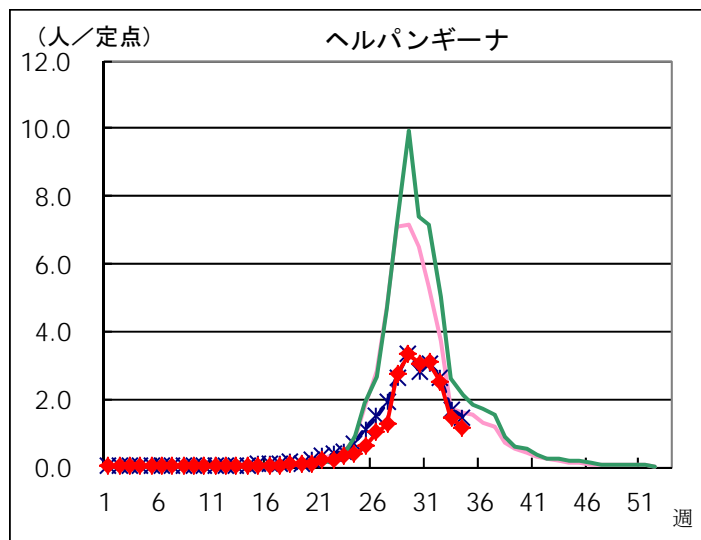
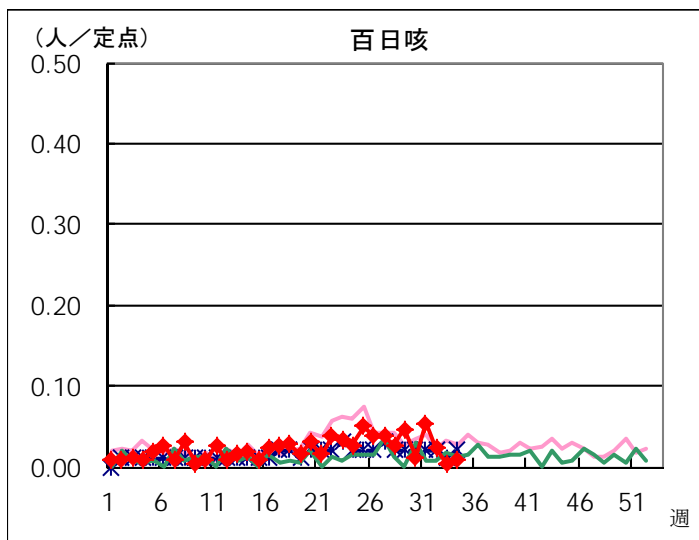
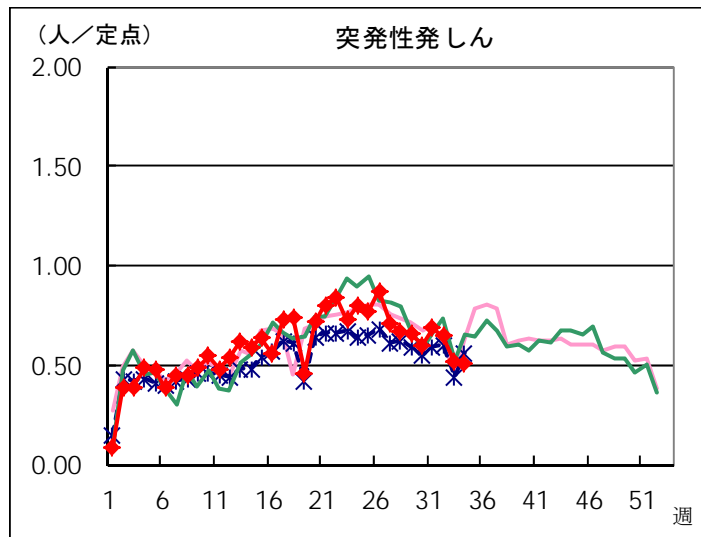
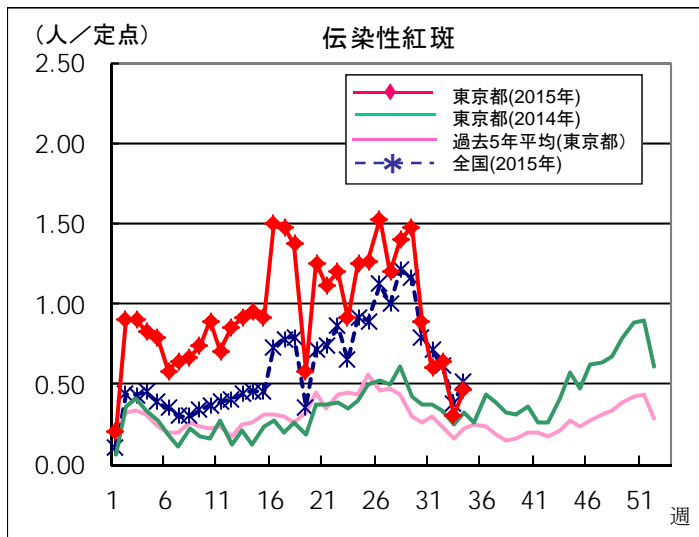
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田	1			1	1	8		2		3	3
中央区			4	17	2	17					
みなと	3		8	22		53	2	4		4	2
新宿区	12	2	9	10	2	34	4	4		8	2
文京		2	2	12	2	30	2			3	1
台東	9		1	18		37	4	6		6	2
墨田区	3	1	7	5	2	30	2	2		9	6
江東区	2	4	5	47	7	40	5	5		13	6
品川区		2	7	24	1	32	3	7		10	
目黒区		7	4	19		39	2	2		10	2
大田区	4	15	14	33	2	59	2	5	1	17	1
世田谷	3	6	14	49	6	89	5	7		18	2
渋谷区			1	8	8	21	1	1			
中野区			1	14		9	4			7	
杉並		1	5	35		32	4	5		2	1
池袋						2				1	
北区		2	5	19	1	54	1	4		4	8
荒川区	2		2	6	3	23	1	1		7	
板橋区		1	1	21		26	3	4		9	1
練馬区	10	1	11	17		58	5	12		15	6
足立	2	7	5	49	2	27	5	3		2	3
葛飾区		1	3	44	1	19	5	2		5	
江戸川	4	9	12	38	1	26	1	5		24	17
八王子市		8	22	57	3	72	3	6		11	4
町田市		1	14	48	1	42	3			13	1
西多摩		6	3	13	2	24	1	1		4	3
南多摩	3	8	7	14	3	76	3	8		13	4
多摩立川	3	2	21	34	1	51	10	7		16	2
多摩府中		12	11	37	2	79	14	8		19	5
多摩小平	3	20	36	48	2	114	15	10	1	27	7
島しょ						9				2	
東京都合計	64	118	235	759	55	1,232	110	121	2	282	89

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			1								
中央区			1		5						
みなと			1								
新宿区	2							5			1
文京					1						
台東											
墨田区		3			2			2			1
江東区					1						
品川区											
目黒区											
大田区			1								
世田谷		7			6						
渋谷区					5						
中野区		1			3						
杉並					1						
池袋					1			2			
北区											
荒川区											
板橋区					5			4			
練馬区		3			1						
足立		1			1						
葛飾区		1						3	1		
江戸川					1						
八王子市		2			2						
町田市		3									
西多摩					1			2			
南多摩											
多摩立川					1			2			
多摩府中		4			1		1	3			
多摩小平		2			4		1	3			
島しょ											
東京都合計	2	27	4		42		2	26	1		2

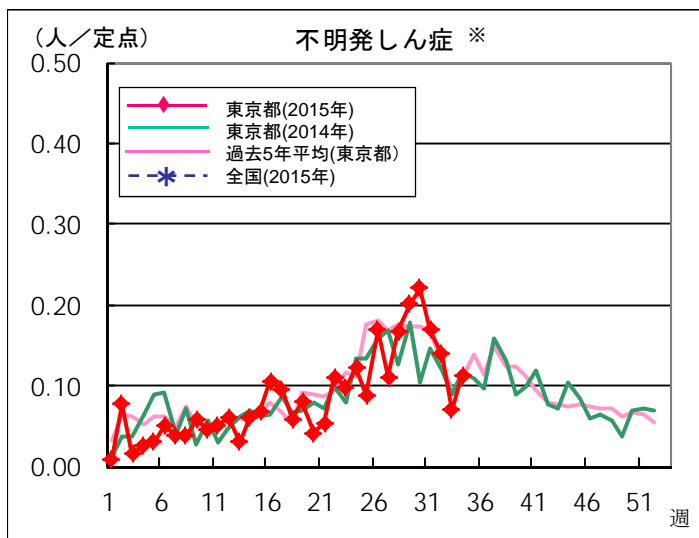
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2015年34週 現在)

◆ 小児科定点

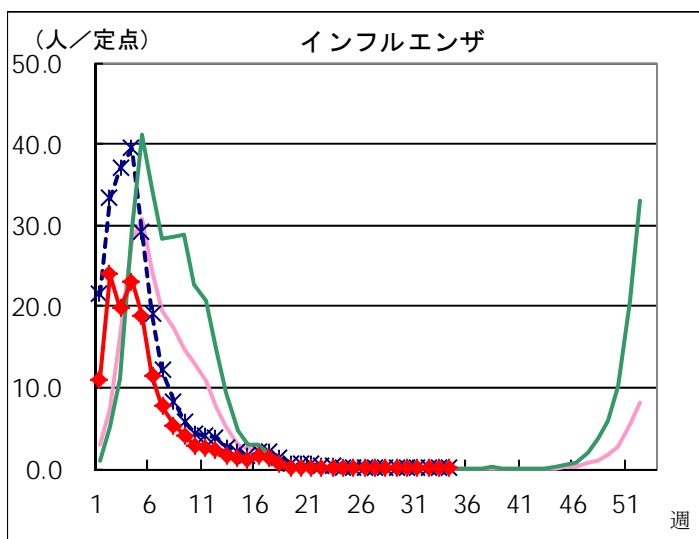




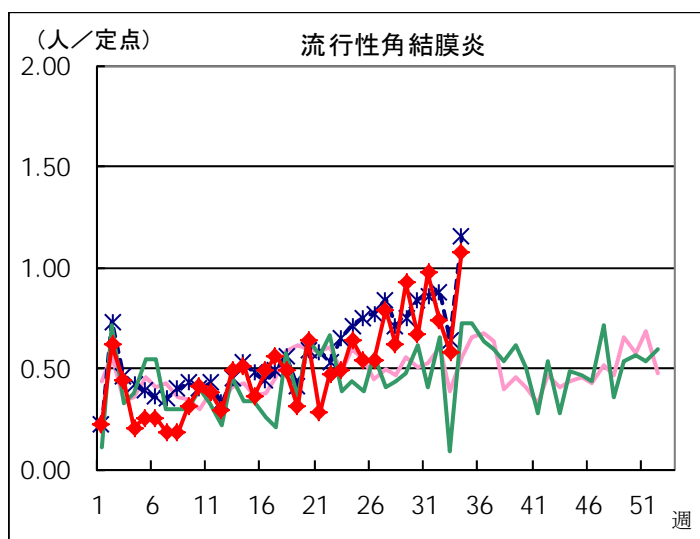
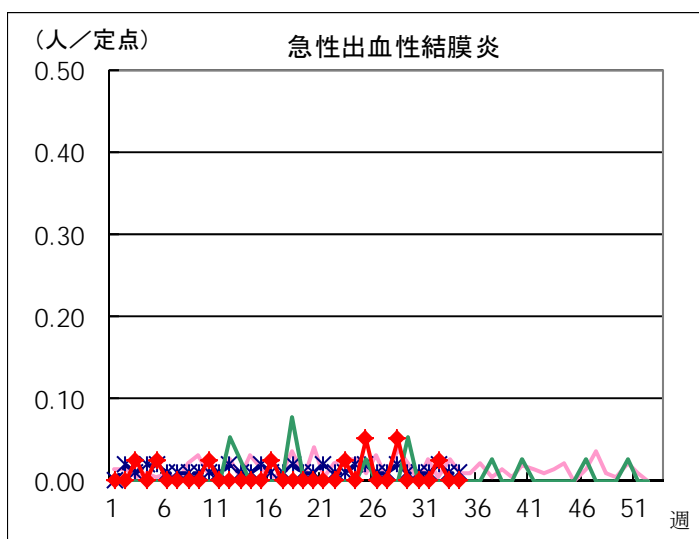
※ 東京都独自対象疾患



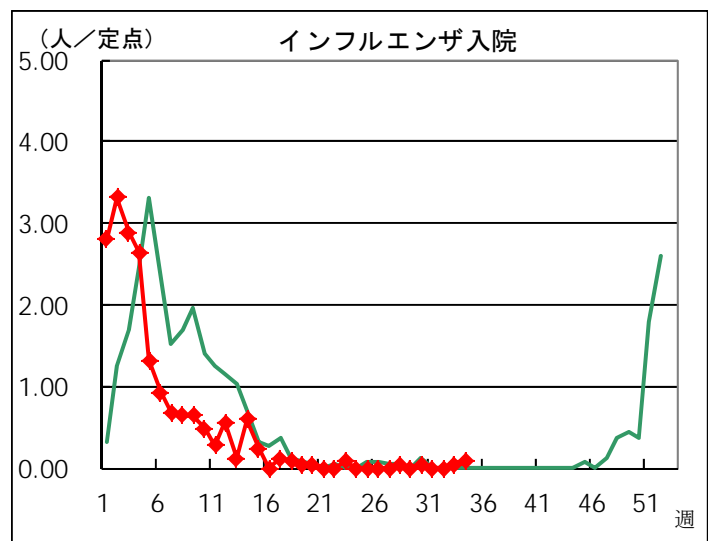
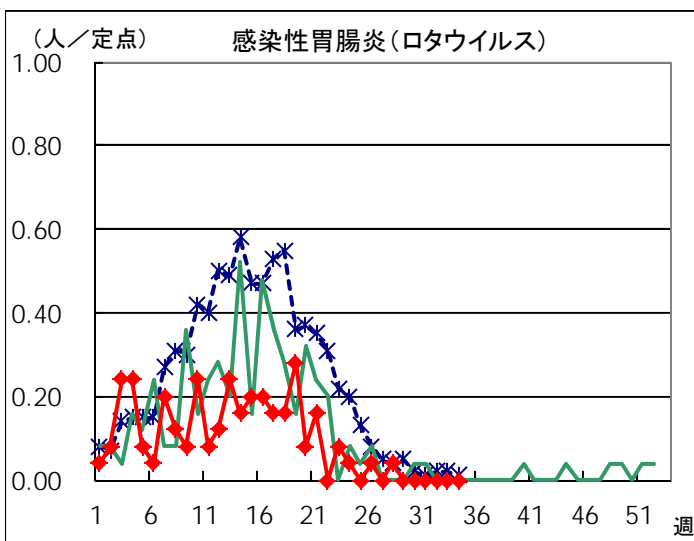
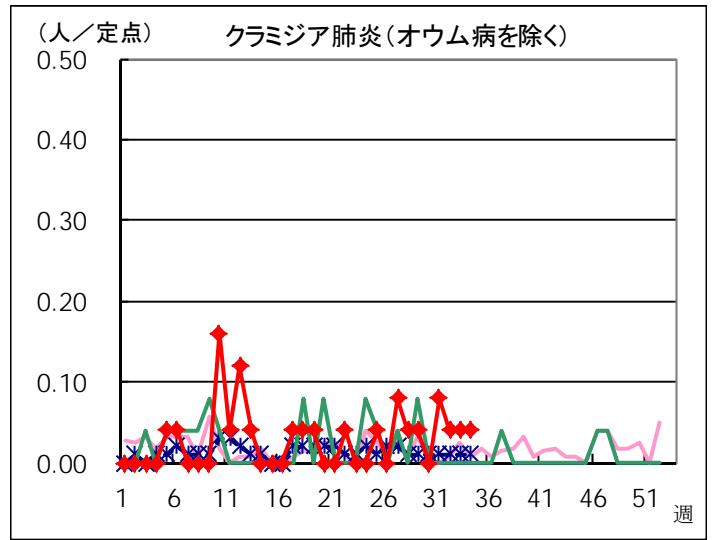
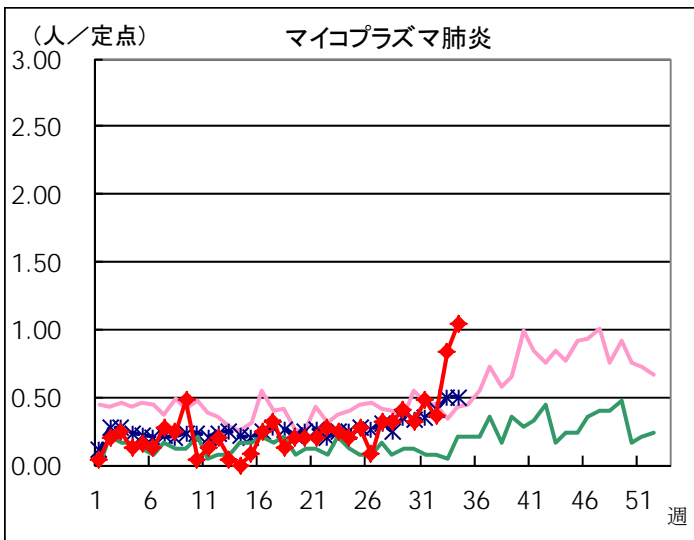
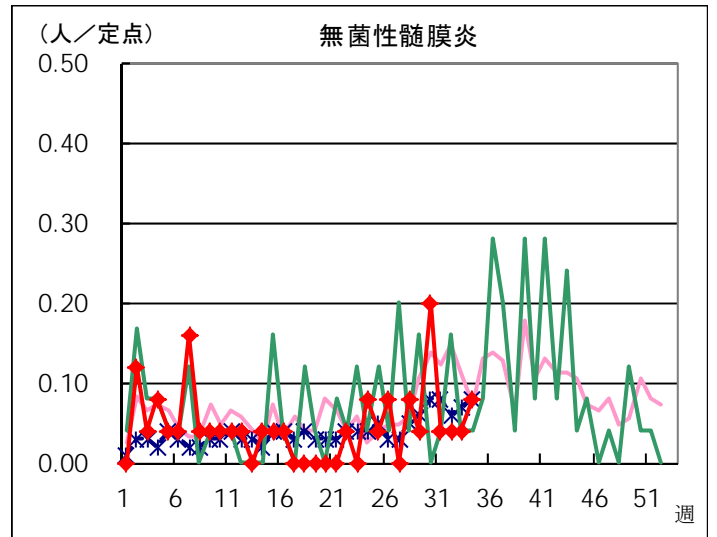
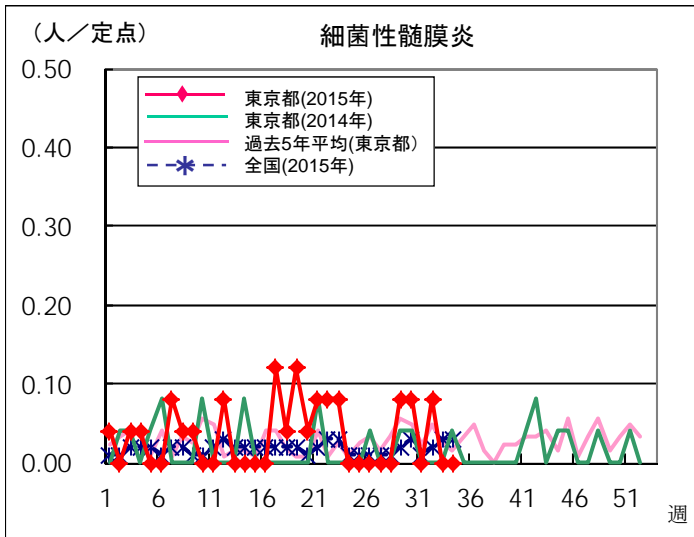
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
7/29	川崎病	3M	咽頭拭い液	ライノウイルス
7/31	手足口病	6M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
8/5	手足口病	7M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
8/3	咽頭炎	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
7/31	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
8/3	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
7/29	突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型
8/3	不明発しん症	1	咽頭拭い液	風しんウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型
7/19	気管支炎	2	咽頭拭い液	ライノウイルス
7/30	手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群16型
8/6	咽頭結膜熱	3	咽頭拭い液	アデノウイルス
8/3	手足口病	5	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群16型
7/28	不明発しん症	6	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群16型
7/31	無菌性髄膜炎	6	髄液	エコーウイルス 9型
8/3	手足口病	7	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群9型
8/4	伝染性紅斑	7	咽頭拭い液	ヒトパルボウイルスB19
8/3	咽頭結膜熱	8	咽頭拭い液	アデノウイルス
8/4	無菌性髄膜炎	15	髄液	コクサッキーウイルス A群6型
8/3	インフルエンザ疑い	36	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型
7/31	流行性角結膜炎	37	結膜拭い液	アデノウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2015年32週				1
2014-2015年 シーズン累計*	2		238	72

* 2014-2015年シーズンの開始は第36週(2014年9月1日～)

病原体検出情報 【週別】

検出病原体	2015年							
	25週	26週	27週	28週	29週	30週	31週	32週
アデノウイルス	5	4	3	4	2	2	2	3
ライノウイルス	2		3		2	1	1	2
ポリオウイルス								
コクサッキーウイルスA群	2	7	12	11	18	7	22	11
コクサッキーウイルスB群				1		1	1	
エコーウイルス					1	2		1
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス	1	1			1			
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型		2	1	2	1	1	1	2
EBウイルス			1					
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス	2							
麻疹ウイルス								
風疹ウイルス			1					1
ヒトパルボウイルスB19		1	1	1	1			1
RSウイルス								
ノロウイルス	2			1	1			
ロタウイルス	1						1	
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型				1				
インフルエンザウイルスB型		1						1
インフルエンザウイルスAH1pdm09								
デングウイルス								
その他のウイルス	2	1				2		
その他の病原体						1		

病原体検出情報【臨床診断名別】

2015年25週～2015年32週

	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他
搬入検体数	17	22	10	15	35	14	10	17	82	6	27	10			1	13
アデノウイルス		3	1	1		10	6									4
ライノウイルス	1	2	1						4		1					2
ポリオウイルス																
コクサッキーウイルスA群	1	2	1		1			13	68		3					1
コクサッキーウイルスB群	1				1											1
エコーウイルス					4											
エンテロウイルス71																
その他のエンテロウイルス		1			1				1							
単純ヘルペスウイルス																
水痘・帯状疱疹ウイルス																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型											10					
EBウイルス												1				
サイトメガロウイルス																
ムンプスウイルス												2				
麻疹ウイルス																
風しんウイルス											2					
ヒトパルボウイルスB19										4	1					
RSウイルス																
ノロウイルス				4												
ロタウイルス				2												
インフルエンザウイルスAH1亜型																
インフルエンザウイルスAH3亜型	1															
インフルエンザウイルスB型	2															
インフルエンザウイルスAH1pdm09																
デングウイルス																
その他のウイルス				3	2											
その他の病原体				1												

<感染症豆知識>

新規抗結核薬と高齢者結核問題

昨年9月に日本におけるスタンダードな結核治療法を定めている「結核医療の基準」が一部改正された。これは日本で開発された40年ぶりの新規抗結核薬デラマニドが市販されたので、これを多剤耐性結核(イソニアジド・リファンピシン両剤耐性)に公費負担で使えるようにするための改正だった。

40年前に登場したリファンピシンによって結核は薬だけで治る病気になったが、その後この薬に耐性化した多剤耐性結核が出現して結核診療の最大の問題となった。外科治療を加えても40～70%しか治らない多剤耐性結核患者は世界に45万人いると推定され、さらに増加傾向にあることから新薬の開発が喫緊の最重要課題だったのだ。米国では、別種の新薬ベダキリンが開発され市販された。ただ、こうした新薬の恩恵を受ける多剤耐性結核患者は、日本では標準治療の推進や服薬管理システムの普及が奏効して年間50～100人程度に減少している。

今の日本における結核診療の問題点は、新規結核患者2万人の2/3を占める65歳以上の高齢結核患者の治療成績が悪く、22%が死亡することだ。90歳以上に限ると58%が1年以内に死亡している。死亡例の半数は担癌患者や意識のない寝たきりの患者など、防ぎようのない結核以外の死亡だったが、あとの半分は受診や診断の遅れによる重症結核例や、胃腸障害などの副作用のため抗結核薬が使えないまま死亡した症例だ。当分の間、新薬を使えるのは多剤耐性結核に限られるが、副作用が少ない点を活かして、いずれ日本の高齢者患者に使えるようになればと思う。

(文責 結核予防会複十字病院 尾形英雄)